



コース後半の始まり

日方圭子

英国・サリー大学助産課程学生(ダイレクトエントリーコース)

3月に入り学生生活の半分折り返し地点を回った。春休みを挟んで次の実習までの9週間、大学での授業が続く。同時に同級生が1人増えた。本当なら去年夏に卒業している学年にいたルーが産／育休の2年間のブレイクを経て大学に復帰したのだった。2人の息子がいる31歳。家族持ちの学生2人が去年退学した後、ここしばらくバラエティの少ない顔ぶれになっていたから、ルーの参加でいい味加わると期待できそう。

私が取っているのは「ディプロマ」資格だが、10月からは希望者のみ平常授業に4教科60単位を取り足して「学位」が取得できる追加授業が始まる。去年暮れ、これが始まったばかりの1年先輩から「いままでの教科より中身も授業方法も断然面白いから、ゼッタイお勧め」と言われて、やるぞー、と決めていた。

それなのに、この先輩は2月に入って学位を諦めてしまった。毎週1日休日を割いての追加授業は負担が大きい。それ以上に、夏までに終わる予定だった授業がひと月ほど卒業後に持ち越しになりそうで、これはただ今妊娠中、8月出産予定の彼女には大いに障害になる。「だからそこまでして学位にこだわる気持ちはない」と。理由は分かるにしても、少しがっかりしてしまった。ちなみに卒業までに追加分の60単位取得が無理だった場合でも、取れるだけの単位を取得しておいて、卒業後働きながらパートタイムで単位を足して学位につなげることも可能。

コースの後半に入ったことで、私はなんだか焦っていた。これからどんどん授業が難しくなるし、小論文、筆記試験に加え、口頭試験、プレゼンテーションも頻繁になってくる。これに対応できるだけの基礎ができているだろうか？ 特に先月の実技試験でこけたのを引きずって、大いに自信を失ったままの状態、気分も落ち込み気味。

そんななか指導教官のアナと個人面談した。最近大学の授業でも顔を合わせる事がほとんどなく、どれだけ自分の状態を把握してくれているか疑問があるが、話せばいつでも親身になってくれる。常に明るく前向きなアナに「実技テストのせいで、学位に挑戦しないなんて言わせないからねっ!」と笑顔で背中を押されると、「自信ないよ」なんて言えなくなる。せっかくの面白い授業を取らないなんてもったいない、やれるところまでやってみよう、とその場で学位の申し込みをしてみた。

春休みの2週間、家でんびりしておいしいものを食べて気分を持ち直そうと思って帰国した。ちょうど桜が満開の東京で「お産サポート JAPAN」の集まりに参加し、懐かしい顔に会えたうえ、素敵な先輩たちと知り合うことができた。皆から元気をもらってきたせいか、4月に大学に戻っても去年の夏休み明けのようなホームシックにはならず前向きにいけている(今のところ)。